

西表島における マングローブ林の保全・保護活動

西表森林生態系保全センター

多様な生物の宝庫となっている西表島のマングローブ林



日本最大のマングローブ林

西表島は、東西・南北1000キ以上に渡る弓状に広がった南西諸島の島々の最南端部にあります。

この島の自然は、多様な生物の宝庫となっており、固有の動植物が繁栄し生物学的にも非常に貴重な地域です。特に島の9割以上が森林に覆われイリオモ

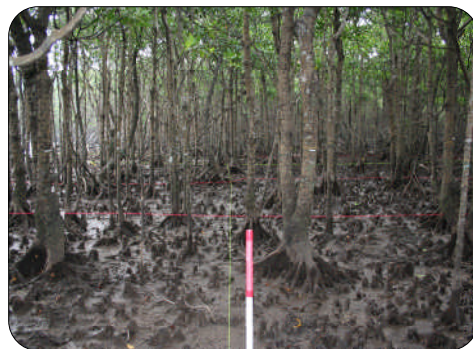
テヤマネコなどの固有種をはじめ、希少な野生動物植物の生息・生育地となっています。

この島の大きな特徴として、500畝にもおよぶ日本最大の面積を有するマングローブ林が生育しており、川岸の安定維持や生物多様性の維持などの機能のほか、近年では森林環境教育の場、レクリエーションやエコツーリズムの観光資源としても重要視されるなど、多くの役割を果たしています。

このようなマングローブ林の保全・保護活動について紹介します。

継続的なモニタリング

マングローブ林の生育状況や生育環境が、どのように変化して行くのかを2005年度から継続的に調査しています。



仲間川のモニタリング設定箇所

調査箇所は、仲間川・浦内川・仲良川・前良川・後良川・与那田川の流域6箇所とし、オヒルギなどの生育状況、稚樹の発生状況、光環境、砂泥の移動状況、地盤高について箇所ごとに3年に1回調査することとしています。

森林環境教育に木道を活用

2008年3月に森林環境教育の場として利用することを目的に、仲間川支流の北船付川（にしふなつき）のマングローブ林内に木道を設置しました。

この木道設置には、環境に優しい木製工法や土地改変を行わず立木を極力伐採しないルートを選定するなど環境負荷の軽減に努めました。

また、木道設置による周辺環境の影響について、設置から6年間モニタリング調査を実施した結果、木道設置に伴う影響は認められませんでした。

また、モニタリングと平行して、木道を利用するガイドの皆さんに対して、ガイド講習会を毎年実施しています。



ガイド講習会の様子



木道を活用したJICA研修の様子

森林生態系保護に邁進



仲間川の台風被害

そのほか、マングローブ林については、台風などによる倒伏箇所の定点撮影による自然復元の状況調査や、マングローブ林の各樹種の開花調査も行っています。

これからも試験・調査などを積極的に実施し、森林生態系保護の一躍を担えるよう職員一同邁進していきたくと思っています。

（文責）所長 井上誠



モニタリング調査を行う職員

花粉発生源対策に向けた取組

花粉症患者に朗報
花粉が減る

森林整備課

花粉症対策について

戦後造成した人工林の多くが本格的な利用期を迎える中で、「伐って、使って、植える」という森林資源の循環利用を進め、森林の有する多面的機能を発揮させるためには、再造林を確実に実施する必要があります。

再造林に当たっては、近年、花粉発生源対策や地球温暖化の防止などの社会的なニーズに対応した苗木の植栽が求められている状況です。

また、低コスト造林に不可欠なコンテナ苗の安定供給も求められています。

しかしながら、花粉症対策品種、成長に優れた品種などの苗木については、生産量が低位であり、また、採穂園なども整備されていない状況です。

このため、花粉症対策苗木などの需要拡大に向け、造林地における穂木採取のための取り組みなどを進めることが必要とされています。

① 間伐等特別措置法と特定母樹

2013年に森林のCO2の吸収能力を高めるために特に成長の優れたものを指定し普及を図ることとされ、今後の造林については、地域特有のニーズを除き特定母樹で造林することが原則とされています。

② 特定母樹の普及体制

林野庁では、1996年度から2013年度までに、小花粉スギ137品種、無花粉スギ2品種、小花粉ヒノキ品種56品種を開発しています。

(下表参照)

開発した品種については、都道府県及び特定増殖事業者により採穂園・採穂園の造成を行い、挿し木などにより増殖を行うことで、民間活力を生かした特定母樹の普及を加速させることとしています。

特定母樹の基準（林野庁募集基準）は、成長が在来系統の約

1.5倍以上・剛性が同様な林分の平均以上・雄花着花量が一般的な量の約半分以下・幹の通直性が採材に支障ない程度とされています。

花粉症対策品種一覧（平成26年4月1日現在）

① 少花粉スギ品種				② 無花粉スギ品種				③ 少花粉ヒノキ品種											
区域	都県名	品種(精英樹)名	年度	区域	都県名	品種(精英樹)名	年度	区域	都県名	品種(精英樹)名	年度	区域	都県名	品種(精英樹)名	年度				
1	青森	南津軽5号	14	3	千葉	勝浦1号	12	4	岡山	吉田20号	18	6	鹿児島	鹿島尾	14				
		北津軽7号	14			北原1号	8			河北4号	14			鹿島尾	14				
		黒石5号	14			北三原3号	8			輪島2号	14			鹿島尾	14				
1	岩手	岩手11号	14	3	東京	西多摩2号	12	2	福井	勝山11号	18	3	茨城	茨城	16				
		水沢6号	19			西多摩14号	12			金沢署101号	14			5	三重	三重	19		
		玉造8号	19			足柄下1号	12			八幡2号	14					計	2品種		
3	宮城	宮城1号	14	3	神奈川	足柄下3号	12	5	徳島	八幡2号	14	1	福島	東白川2号	18				
		小阿仁107号	19			足柄下6号	12			八幡8号	14			2	樹木	窪谷1号	18		
		秋田103号	14			愛甲1号	8			八幡11号	18					2	埼玉	西川15号	18
1	秋田	北秋田1号	14	3	山梨	愛甲2号	8	5	高知	高岡2号	14	2	千葉	東沼4号	22				
		由利11号	14			愛甲3号	8			5	愛媛			周桑16号	18	2	東京	東京4号	18
		仙北1号	19			津久井3号	8							5	高知			高岡2号	14
1	山形	雄勝3号	19	3	山梨	片瀬5号	8	6	福岡	東三好6号	25	2	長野			上松10号	18		
		雄勝1号	14			片瀬103号	12			5	徳島			那賀23号	25	2	岐阜	大野2号	12
		小阿仁107号	19			片瀬17号	8							5	高知			那賀16号	18
2	新潟	高田1号	19	2	長野	下高井17号	12	6	福岡	東八女10号	14	2	宮崎			東白井3号	18		
		村上市2号	14			下高井24号	12			6	佐賀			東三好6号	25	2	長崎	北松菜7号	18
		十日町市1号	14			飯山2号	12							6	佐賀			東藤津14号	14
3	福島	石川1号	12	2	岐阜	飯山2号	12	6	佐賀	東藤津14号	14	2	岐阜			富士5号	18		
		東白川9号	12			伊豆6号	8			6	長崎			東藤津14号	14	2	愛知	北松菜7号	18
		南会津4号	12			伊豆8号	8							6	熊本			東藤津14号	14
2	福島	坂下2号	12	3	静岡	大井2号	12	6	大分	東藤津14号	14	2	兵庫			多可6号	19		
		河沼1号	12			大井9号	12			6	長崎			東藤津14号	14	2	兵庫	多可6号	19
		多賀2号	12			天竜1号	8							6	長崎			東藤津14号	14
3	茨城	多賀14号	12	3	愛知	天竜2号	12	6	長崎	東藤津14号	14	2	岡山			真庭1号	19		
		那珂2号	12			天竜4号	12			6	大分			東藤津14号	14	2	岡山	真庭2号	19
		那珂6号	12			天竜8号	12							6	大分			東藤津14号	14
3	栃木	久慈17号	12	3	愛知	天竜17号※1	12	6	大分	東藤津14号	14	2	岡山			真庭7号	19		
		那珂1号	12			東加茂5号	12			6	大分			東藤津14号	14	2	岡山	真庭9号	19
		那珂5号	12			東加茂5号	12							6	大分			東藤津14号	14
3	群馬	南那須2号	12	5	兵庫	神崎7号	14	6	宮崎	東藤津14号	14	2	岡山			真庭9号	19		
		那須1号	12			神崎8号	14			6	宮崎			東藤津14号	14	2	岡山	真庭9号	19
		群馬1号	8			神崎15号	14							6	宮崎			東藤津14号	14
3	埼玉	群馬4号	8	4	岡山	美方2号	18	6	鹿儿島	東藤津14号	14	2	岡山			真庭9号	19		
		多野2号	8			美方3号	18			6	鹿儿島			東藤津14号	14	2	岡山	真庭9号	19
		利根3号	12			美方1号	20							6	鹿儿島			東藤津14号	14
3	埼玉	利根3号	12	4	岡山	美方2号	18	6	鹿儿島	東藤津14号	14	2	岡山			真庭9号	19		
		秩父(県)5号	12			美方3号	18			6	鹿儿島			東藤津14号	14	2	岡山	真庭9号	19
		秩父(県)10号	12			美方1号	20							6	鹿儿島			東藤津14号	14
3	埼玉	比企1号	8	4	岡山	美方7号	14	6	鹿儿島	東藤津14号	14	2	岡山			真庭9号	19		
		比企13号	8			美方7号	14			6	鹿儿島			東藤津14号	14	2	岡山	真庭9号	19
		鬼沼10号	12			美方7号	14							6	鹿儿島			東藤津14号	14
3	千葉	鬼沼10号	12	4	岡山	吉田13号	14	6	鹿儿島	東藤津14号	14	2	岡山			真庭9号	19		
		鬼沼10号	12			吉田15号	20			6	鹿儿島			東藤津14号	14	2	岡山	真庭9号	19
		鬼沼10号	12			吉田18号	14							6	鹿儿島			東藤津14号	14

○ 少花粉スギ・ヒノキ品種は、早年中には雄花が全く着かないか、又は極めて僅かにしか着かず、花粉発生の多い年でもほとんど花粉を生産しない特性（花粉生産量が一般的なスギに比べ約1%以下）及び林業用種苗として選定した特性を有するスギ・ヒノキです。
○ 区域とは、林業種苗法第24条第1項で定められている配布区域番号です。
○ 年度とは、品種の開発年度です。
※1 天竜17号は、平成17年度に開発されたアレルゲンの少ないスギとしてH17に評価されています。

2015年度 13万9千本を植栽

九州森林管理局では、主に2009年度から小花粉少品種、特定母樹から生産された苗木を事業ベースで植栽しており、09年度は7千本、13年度には約4倍の2万7千本を植栽し、15年度からは、取り組みを加速し、13万9千本植栽しています。
(次頁表1参照)

15年度の13万9千本の内2万本については、将来の採穂に対応するために、品種毎に植栽箇所を区分けしています。
(次頁図1参照)

また、15年度から苗木需要が増加することに対応するための苗木生産支援策として、国有林内の造林地における採穂適地について、ホームページに掲載し、積極的な穂木の供給に努めています。
(次頁図2参照)

2016年度の取組

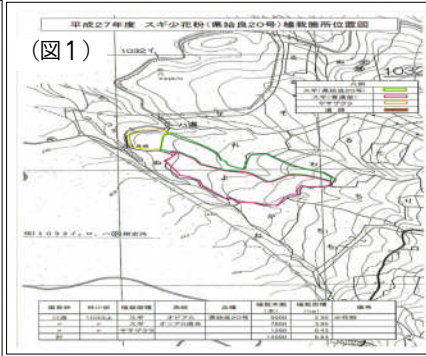
九州森林管理局管内9署に、花粉症対策苗木を植栽する箇所の条件として、緩傾斜及び林道等に接していることなど立地条件の良い場所に区画して5万5千本を植栽することとしています。

(表1)

少花粉スギの品種及び植栽地



署名	林小班	面積 (ha)	品種	本数	署名	林小班	面積 (ha)	品種	本数
福岡	1130ほ2	3.44	八女10号 アカバQ-1	6,800	都城	40へ	6.99	高岡審1号	2,500
	佐賀	1064ほ	7.82	県藤津14号		18,300	11005	5.88	高岡審1号
熊本南部	9ち	0.71	八女10号 アカバQ-1	1,300		2091へ	0.92	高岡審1号	2,100
	1137と2	3.97	高岡審1号	400	宮崎南部	16に	1.36	始良3号	2,800
宮崎北部	1138た	0.91	高岡審1号	1,550		17リ	3.97	始良3号	8,160
	1138る1	1.03	高岡審1号	1,750		17ぬ	0.20	始良3号	400
	1128は1	0.45	高岡審1号	800		119こ	0.31	始良3号	600
西都児湯	1055お1	1.36	高岡審1号	2,500		127な	1.42	始良3号	2,900
	1055く	1.31	高岡審1号	2,500		2058れ	1.00	始良3号	2,000
宮崎	2030ほ	7.10	高岡審1号	3,000	鹿児島	55は	2.76	始良4号	4,750
	265し	2.19	高岡審1号	500		1033よ	6.40	県始良20号	5,000
大隅	265ひ	2.10	高岡審1号	4,500	65に	3.54	始良3号	2,310	
	4026る5	3.00	高岡審1号	6,000	30よ	5.11	県始良20号	5,000	
	2039は	3.79	高岡審1号	8,700	39い	0.97	始良3号	200	
都城	22わ	8.00	高岡審1号	5,000	39に1	2.76	始良3号	5,600	
	2005わ	1.30	高岡審1号	2,600	1135ち	1.03	始良3号	2,100	
	2005か	4.08	高岡審1号	8,200	3080ち1	1.38	始良3号	3,200	
					3024ち	1.52	始良3号	3,100	
合計						100.08		138,920	



(図2) 九州森林管理局ホームページ



また、植栽してから約5年後の採穂に向けて、造林地における林内路網整備や系統表示板などの条件整備を行うこととしています。



花粉症対策苗木

また、エリートツリーなどを活用した中苗、大苗の実証試験にも積極的に取り組み、シカ対策を含めた低コスト造林の鍵と

としします。

また、エリートツリーなどを活用した中苗、大苗の実証試験にも積極的に取り組み、シカ対策を含めた低コスト造林の鍵と

花粉症対策苗木の供給量を大幅に増やすためには、行政、研究機関、森林組合、苗木生産者、森林所有者などが情報を共有し連携・協力することが必要です。

特に、九州地方のスギ苗木生産については、挿し木による生産が主流であることから、引き続き花粉症対策苗木の需要拡大を目指して、2013年度から開催しているコンテナ苗供給調整会議及びコンテナ苗生産技術向上検討会などにおいて、花粉発生源対策の推進を図り、更なる穂木の供給増大に取り組むこととしています。

苗木の需要拡大を目指して

【大分西部森林管理署】日田市では、大切な産業である林業と木材産業を、市民の方々に身近に感じてもらえるイベントとして「第八回木と暮らしのフェア」が、地元素材の杉・漆喰などをふんだんに利用して建築された総合文化施設のパトリア日田で12月11日に開かれました。

当日は、多くの林業関係団体が参加し、木材に関わる商品・製品の紹介、木工教室やクリスマスリースづくりなどの体験、木のおもちゃや遊具を使った木育コーナーなど様々な企画が計

当番ブーイスは大盛況

なるコンテナ苗の生産拡大を支援し、九州からの林業再生を支援していきます。



植栽3年目のエリートツリー



大好評の大分西部署ブーイス

これを機に、明日を担う子供達には森林・林業に親しみを抱いてくれればと願うところです。

また、地元林業家からは世界伐木チャンピオンシップでも行われている、チェーンソー競技のデモンストレーションが披露されました。

大分西部森林管理署からも関係機関の協力を得て、林野関係事業のPRとして、温暖化対策などのパネル展示やCLT標本展示、丸太切りやキハダ・ニッケなどの樹木紹介、葉脈のしおり、ミニツリーや木製コースター、木の実を利用した工作物づくりを企画し参加したところ、子供達を中心に集客に恵まれ、終了間際まで工作物づくりが続くなど当ブーイスは大好評で終えたところでです。

木材の安定供給体制の確立に向けた取組

資源活用課

旺盛な木材需要への対応

九州森林管理局では、九州の旺盛な木材需要に対応するため、国有林材の安定供給システムによる販売（システム販売）を通じて木材を安定的に供給できる体制の構築を進めてきており、システム販売による販売量は年々増加傾向にあります。

また、2014年度から、これまでの素材（丸太）のシステム販売に加え、さらに木材の安定供給を推進するため立木のシステム販売にも取り組んでいます。



国有林から安定的に丸太を生産

近年では、新たな需要先である木質バイオマス発電所に対し、原材料の安定供給を目的として、バイオマスの木材をシステム販売するとともに、これまで資源として利用されていなかった初回間伐林分の立木販売や林地残材の発生状況をホームページ上に公表するなど、資源の有効活用に努めています。

さらに、豊富な森林資源の循環利用を目的として、伐採後の再造林を促進するため立木販売と造林作業を一括して発注する「混合契約」の取り組みも実施しています。

民国連携した情報の収集・発信

学識経験者や木材産業関係者からなる国有林材供給調整検討委員会等を通じて国有林材を含めた地域の木材需給動向の把握に取り組んでいます。

また、国有林材の生産見通し、年間の事業量及び立木販売予定を公表するとともに、他の公的機関へも呼びかけを行い、民国連携した情報発信に取り組んでいます。

○国有林材供給調整検討委員会
木材価格急変時の供給調整機能を發揮するため、学識経験者、木材産業関係者などの専門家8人による国有林材供給調整検討委員会を設置し、木材の需給や価格の動向等を踏まえ、国有林材の供給調整の必要性や、その実施方法について検討を行っています。

今年度はすでに3回の委員会を開催し、12月の第3回委員会では、大型製材工場の規模拡大や震災復興需要、木質バイオマス発電所の稼働や原木輸出など多様な需要があり、地域や業種により需給動向が異なることから、そうしたことに配慮しつつ安定供給に努めるよう報告があげられました。

○民国連携した情報発信
木材生産事業者や製材工場などの木材需要者の計画的な事業



国有林材供給調整検討委員会の様子

運営に資するため、国有林材の生産見通しを県別に月単位で公表しています。

今年度からは宮崎県や熊本県の一部の森林管理署において立木販売予定情報の公表を開始し、今後準備が整い次第拡大していくこととしています。

また、林業事業体の経営基盤の強化、労働力の確保の一助となるよう、年間の素材生産や森林整備の事業量についても県単位で公表しています。

これらの取り組みの拡大を図るため、公的機関と連携した情報発信に努めています。これまでは、大分県（生産見通し及び年間事業量）熊本県（年間事業量）と連携して公表してきましたが、今年度から新たに鹿児島県（年間事業量）も加わり、連携して公表しています。

木材の安定供給と利用の推進

新たな大型製材工場の進出や木質バイオマス発電所の複数稼働などに伴い、木材需要が高まる中で、システム販売などを通じて直材や曲がり材という区分ごとに応じた資源の有効利用と安定供給を推進しています。

○システム販売の推進

システム販売とは、国産材の需要拡大等に取り組む製材工場等の需要者と協定を締結し、協定で定めた数量を安定的に供給するものです。

一般材及び低質材の計画的・安定的な供給を通じて、地域における安定供給体制の整備や木材の新たな需要の拡大、加工・流通の合理化等に資することを目的としています。



用途区分毎に仕分けされた丸太を運搬

今年度の素材（丸太）のシステム販売協定量は、製材や合板用等の一般材が約22万3千立方尺、製紙やバイオマス用などのC材が約9万8千立方尺となりました。

○木材市場への委託販売

システム販売のほか、木材市場へ国有林材の販売の委託（委託販売）も実施しています。今年度は、熊本県内の6市場8会場が開かれた、熊本地震からの復興を祈願した特別市へも出材し、委託販売を実施しました。

特別市では、熊本県内だけでなく宮崎県、鹿児島県などからも多くの業者が来場し、盛況な立ち会いとなりました。

今後、地域の木材需要への対応の一環として、木材市場へ品質の良い素材を供給する委託販売に取り組んでいきます。



熊本復興祈願特別市の様子

国産材の安定供給に向けて

近年の国産材指向の高まりや製材工場の規模拡大により、原木の安定供給への要請は、益々強まっております。九州管内の国有林・国有林が一層連携した強固な安定供給体制を構築していくことが木材利用の拡大を図る上でも重要であると考えています。

このため、九州森林管理局では、素材生産などの年間事業量や生産見通しの公表などの民国連携した取り組みを進展させるとともに、システム販売の取り組みを国有林へ更に波及することで地域林業の活性化につなげ、ひいては林業全体の発展に貢献できるよう取り組んでまいります。

（文責）課長補佐 志賀栄一

植樹祭に200人が参加

【北薩森林管理署】11月11日に阿久根市・脇本地区公民館及び脇本海岸市有林において、平成28年度北薩地区植樹祭（主催・北薩地域森林・林業振興協議会、北薩森林管理署、阿久根市、北薩地域振興局）が、来賓、関係行政機関、地元林業関連団体、緑の少年団、一般参加者など約200人が参加し開かれました。

式典では、主催者を代表して西平良将阿久根市長（北薩地域森林・林業振興協議会代表）が挨拶、続いて北薩地区林業功労者や県などが実施した各種コンクールの表彰が行われ、最後はスローガンを採択し閉会しました。

その後、場所を浜本海岸市有林の植樹会場に移し、植樹を担当した北薩森林管理署から宮崎太守総括森林整備官及び森林官2人が、クロマツ（スーパーグリーンさつま）と植栽方法について説明しました。



植栽方法を説明する職員

代表植樹には、北薩森林管理署から前田三文署長が参加するとともに、地元選出の国会議員、県・市議会議員、関係行政機関など20人が植樹を行い、一般植樹では参加した全員がクロマツの成長を祈りながら植栽しました。

最後に、前田署長から「植樹祭を契機に地域における森林育成などの取り組みが推進されることを期待します」との挨拶で植樹祭は閉会しました。

2箇所で育樹作業を実施

【沖縄森林管理署】当署では、毎年地元小学校児童やボランティアの方々とともに、首里城古事の森での活動を行っているところです。今年度も、東村と国頭村の2カ所で育樹作業を実施しました。

「首里城古事の森」育成協議会の主催により、11月21日に東村平良国有林内で、12月7日には、国頭村安田国有林内で補植・施肥作業を実施しました。



育樹作業に汗を流す参加者

東村平良国有林では、あいにくの空模様となり東村小学校児童への森林教室は中止となりましたが、作業は関係者をはじめとする多くの方々に参加していただき予定どおり無事に終了しました。

国頭村安田国有林では、好天に恵まれ、安田小学校・安波小学校の児童も参加し活動を行うことができました。また、昼食後には、紙芝居を行い、森林の持つ多様な働きについて楽しく学んでもらう森林環境教育も実施することが出来ました。

その後、「首里城古事の森」の活動を紹介するクリアファイルと、九州森林管理局発行の「山学校みどりの教科書」を小学校児童に配布し、笑顔のなか活動を終えることが出来ました。

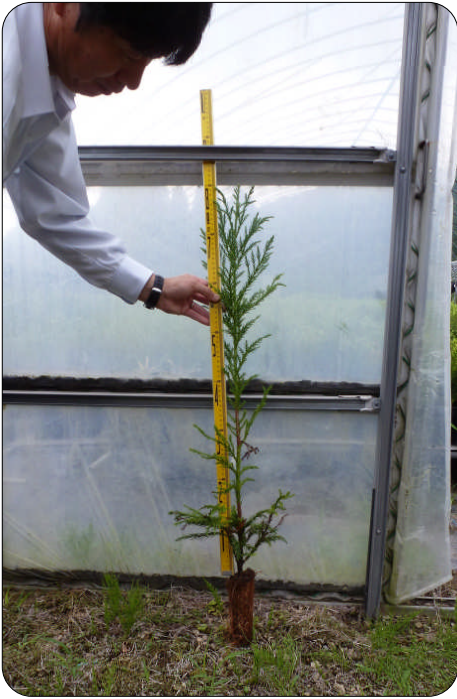
低コスト化を実現する施業モデルの展開と普及

技術普及課

造林事業の低コスト化に向けて

林業の成長産業化を実現するためには、森林の有する多面的機能を持続的に発揮させていく必要があります。そのためには施業の効率化と収益の増大による森林の循環利用を確立していくことが重要な課題となっていくところとです。

その施策の一つとして、再造林などによる適切な更新の確保が掲げられおり、この施策を推進するに当たって、育林経費の大半を占める造林初期におけるコストの低減を図り、再造林が



小花粉等のスギで、かつ成長の早い優良品種を用いた中苗のコンテナ苗

円滑に行われるようにすることが極めて重要であることから、コンテナ苗や成長に優れた苗木の活用、低密度での植栽、獣害対策などの技術開発の実証を進めるとともに、民有林への普及を念頭にトータル的な低コスト化などに向けた先駆的手法を積極的に導入し、国有林が先導的な役割を果たすことが重要と考えています。

2017年度においては、これまで造林事業の低コストに向けた取り組みを一体的に推し進めることを前提に、成長の早い遺伝子を持つ優良品種のスギ中苗を活用することにより、下

刈回数削減やシカ被害対策などを含めたトータル的な低コスト化を加速させるために森林技術・支援センター、熊本南部森林管理署、森林整備課、技術普及課を主体とし、共同研究機関として森林総合研究所九州支所及び林木育種センター九州育種場と連携を図りながら、熊本南部森林管理署管内の西浦国有林に「スギ中苗(※)」を用いた低コストモデル実証試験」の団地として計画しているところです。(※中苗…生産者が従来出荷するまでの1〜2年程度の期間内における70〜100cm程度の苗

10箇所を実証試験を行う

具体的には事業ベースで実施することとしており、シカ被害を想定しつつトータル的な低コスト化に向け面積約10haの団地に様々な実証試験を行うA〜Jの10箇所にゾーン分けを行い、スギ中苗植栽試験地のほかに、総研九州支所による下刈省路試験地、九州育種場による次代検定林の設定、低密度植栽ゾーン、天然活力による森林づくりゾーン及びコウヨウザンの植栽試験地などを設定し、スギコンテナ中苗がシカ被害を受けにくいと

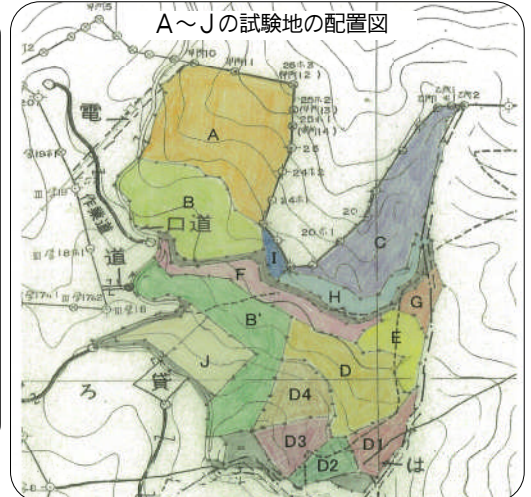
される樹高約150cmに達するまでの期間や、獣害対策用資材の種類別やパッチディフェンスによる被害状況比較や、下刈コスト削減への手法検証など様々な実証試験を行い、その中でスギ中苗、獣害ネット、単木保護資材、ドローンなどの各種アイテムによる低コスト化に向けた可能性などを探るとともに、将来、低コストモデル林の研修会場として活用していくこととしています。

また、この取り組みにより得られた貴重なデータや検証結果については、国有林はもとより、民有林や林業関係者に広く情報提供を行い、新たな低コスト再造林施業の推進と民有林への普及・支援につなげることであります。

(文責) 課長 補佐 後藤 毅



※ドローンでの撮影：北側(A上空)から撮影見えているのはB・D・F・I・Jゾーン付近



森林総合監理士の育成に向けて

森林技術・支援センター

知識・技術の習得を支援

九州森林管理局では、林野庁が実施する森林総合監理士等育成対策事業の技術者育成研修として、県・市町村・民間事業体及び森林管理局などの若手職員を対象に、地域の森林づくりの構想を描く森林総合監理士に必要な知識・技術を習得して頂くため、演習・現地実習を中心とした「ブロック研修」「実践研修」を実施しています。

ブロック研修に29人が参加

日程：2016年9月13～16日
研修会場：熊本県人吉市「ホテルサン人吉」

現地実習：人吉市大畑国有林74

林班外

受講者：29人（県13人、市3人、

国有林8人、森林整備

センター5人）

①森づくり構想演習

九州大学の溝上辰也准教授を外部講師に招き、森林を科学的に評価する能力を習得するため、ヒノキ人工林において班単位で、

現地の林況などを評価した上で、求められる機能を踏まえて将来的な目標林型、育成途中の目標林型、当面の施業について検討・発表を行い、講師、他班との意見交換を通じて、森づくりについての理解を深めました。



現地検討の様子



各班の発表の様子

②資源循環利用構想演習

1千鈔程度の団地（森林）を対象として、市町村森林整備計画を念頭に、地域の状況を踏まえ、どんな森林経営をするのか、林業専用道の新設路線の配置や間伐の年次計画を各班ごとに机上で策定の上、現地検討を行い、木材生産の収支と整備にかかる経費の試算等を行いました。

団地内の事業計画を踏まえ、10年間にわたる経営ビジョン及び地域の将来ビジョンを様々な視点から班ごとに検討し、首長向けのプレゼン資料（PPT）として、発表・意見交換を行いました。

この研修の演習・発表はコミュニケーション・プレゼンテーション能力、建設的な議論を行うための能力の向上にも大きくつながっています。



新設路線の配置等を現地で検討



各班での検討の様子

21人が参加して実践研修

日程：2016年10月12～14日
研修会場：九州森林管理局
現地実習：北本妙寺山国有林1

75林班外

受講者：21人（県11人、国有林

8人、民間事業体2人）

実践研修は、「伐出から造林に係る作業計画とコストの検証」をテーマに、鹿児島大学の岡勝教授を招いて実施しています。

主伐・再造林を進めていく上で、地域の関係者に対して伐出から造林に係るコスト低減対策や採算性などに関する技術的な支援が課題であり、これらの課題に対応できる技術者の育成を目標とした研修で、約8鈔のヒノキ人工林を対象に班ごとに作業システム、生産・販売・造林

に係るコストなどを検討試算し、発表・意見交換を行いました。



コスト等の検討結果を発表

地域の活性化へ向けて

この研修を通じて、多くの森林総合監理士が誕生し、地域の森林資源をうまく活用し循環的な森づくりが実施され、地域が活性化することに期待します。

最近では民有林と国有林の森林総合監理士が共同して市町村森林整備計画の作成を支援するケースがディ地区（2016年・木城町）が設定されており、そこで培われたプロセスを他の地域へ普及・啓発できればと考えています。

（文責：専門官 池水寛治）

森林のアートギャラリー表彰式・除幕式を開催
43作品の中から最優秀賞1点・優秀賞5点を選出

12月11日、九州森林管理局において、「第12回森林（もり）のアートギャラリー」の表彰式並びに除幕式を行い、制作にあたった生徒達のほか指導した先生・保護者など56人が出席しました。

今回のテーマは前回に引き続き「山の恩恵」。今年度から8月11日が『山の日』として国民の祝日とされ、その意義は『山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する』とされており広く市民に普及するため、下絵を市内の中学生を対象に募集しました。

その結果、15校から43作品の応募があり、下絵審査で選考された6作品について、8月からアートパネル（コンパネ1・4



表彰式の様子

対×4・5対)の制作を依頼し、各校の完成したアートパネル作品から、最優秀賞1点、優秀賞5点を実施団体である日本森林林業振興会と選考委員で選出しました。

最優秀賞を九州森林管理局正門右壁、先の地震で被災したブロック塀に変え新設された、東側フェンスに優秀賞を設置しました。

入賞した6校の表彰の後、生徒らにより作品の除幕を行ったところ、生徒や先生、保護者から歓声が沸き上がっていました。これまで展示されている作品は道行く人たちの心を癒し、地域から好評を博しており、地震の被災後も地域や学校から復旧を望む声が多く聞かれました。

今回展示した作品も『山の日』制定の意義と合わせ、自然や森林について考えてもらうきっかけになる事を期待し、今後2年間展示することとしています。

また、当日はテレビの取材もあり、その日のニュースで表彰式の様子が放映されました。

なお今回の表彰作品は次のとおりです。(担当＝技術普及課)



【優秀賞】

「生き物のつながり」

熊本市立出水中学校 美術部同好会1～3年生



【最優秀賞】

「この森の木でできたピアノが帰ってきた」

熊本市立東町中学校 美術部1年生



【優秀賞】

「森への思いは樹形図」

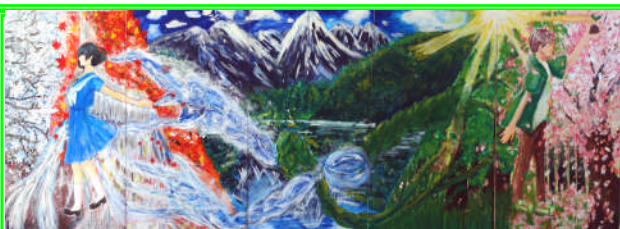
熊本市立帯山中学校 美術部2年生



【優秀賞】

「森の空気につつまれて・・・」

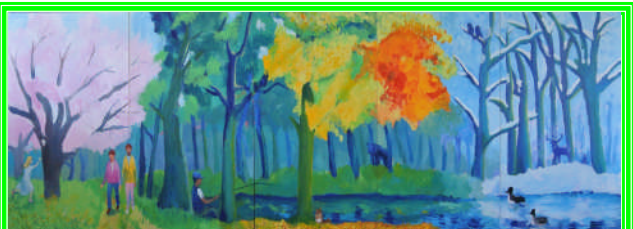
熊本市立出水南中学校 美術部2年生



【優秀賞】

「自然の四重奏 (カルテット)」

熊大教育学部附属中学校 美術部2年生



【優秀賞】

「山の四季」

熊本市立鹿南中学校 美術部1～3年生

照葉樹林復元ボランティア間伐を実施 ソーラーフロンティア社員・家族38人が作業に汗を流す

綾の照葉樹林プロジェクトは、2005年の協定締結以来、一般企業、学生、NPO、綾町民、一般市民など、様々なボランティアの方々による照葉樹林への復元を図るための間伐作業を実施しており、今回で18回目を迎え、11月26日に宮崎県綾町中尾国有林2045に4林小班に設定しているボランティア用見本林において、昨年度に引き続きソーラーフロンティア社（本社、宮崎・国富工場）の職員及び家族38人が参加し実施されました。



鋸を使った伐倒に汗を流す参加者

当日は天候にも恵まれ集合場所である綾町・川中キャンプ場において開会式が行われ、主催



作業に参加したソーラーフロンティア社の皆さん

者を代表して鈴木正勝宮崎森林管理署長が挨拶を行いました。その後、参加者全員で準備体操を行い作業地に移動し、宮崎森林管理署職員による間伐の実演及び安全指導を受け、森林管理局・署職員の指導の下、職場の仲間・家族と一緒に楽しく作業を行いました。

参加者の中には、間伐・玉切り作業が初めて、鋸を使うのも初めてという方も参加されており、受け口・追い口切りに悪戦苦闘しながらも楽しく作業し、伐倒したときの迫力に歓声が上がるとともに、切り口から漂うヒノキの香りを楽しんでいま

た。

作業を終えた参加者からは「貴重な経験ができた。今後ボランティアに参加し、森を守る活動を続けていきたい」などの声が聞かれました。

(担当：計画課)

貼り絵やしおり作りに 園児大はしゃぎ

【熊本南部森林管理署】11月25日、多良木町にある社会福祉法人むつみ保育園の依頼を受け、自然体験学習の中で森林教室を実施しました。

保育園の園長先生から開催にあたり、「今年度は天候に恵まれず運動会も室内で行った。久しぶりに晴天でイベントを行うことができ、子供たちも楽し



竹とんぼとコマをもらいました

にしている」との話がありました。

子供たちは、湯前グリーンパレスに移動しての森林教室で、屋外での葉っぱの貼り絵やしおり作りに大はしゃぎで取り組んでいました。

当日は時間の都合もあり、竹とんぼやドングリのコマ回し体験まで楽しむことはできませんでしたが、代わりにお土産として竹とんぼとコマを一つづつもらい、自分の作品と併せて大切に持ち帰っていました。

最後に子供たちが今後も木や森に関心を持ってもらい健やかに成長することを願い、無事にイベントを終了することができました。

体験学習で化石を発見

【宮崎南部森林管理署】日南市立瀧上小学校の5年生16人を対象に、森林セラピー基地にも認定されている猪八重溪谷において、森林体験学習を実施しました。

まずはじめに、猪八重溪谷と森林の働きについて質問を交えながら説明を行いました。中には、水源かん養機能を明確に答える子供がいて、驚く場面もあ

りました。

その後、溪谷を歩きながらの説明に真剣なまなざしで聞き入っていました。終点では化石の発掘調査にチャレンジし、開始から15分もしない内に3個も見つける生徒もおり、先生方から「日頃の授業でも、このぐらい真剣にやれ」との声が上がるほど熱心に石ころに見入っていました。

最後に、「自然いっぱい気持ちよかった」「いろいろな動物や植物のことがわかった」「化石が発見できてうれしかった」など喜びの感想があり、子供たちにとっては、貴重な体験となりました。

今後このような体験学習等を通じた森林環境教育の必要性を感じる一日でした。



職員の説明に聞き入る小学生

第2回 保護林管理委員会を開催

12月16日に、第2回目となる保護林管理委員会を開きました。当委員会は、保護林制度改正に伴い新たに設置された委員会であり、九州森林管理局管内の保護林を6区分から3区分に再編することとしています。

第1回委員会は、10月21日に開かれ、保護林制度や制度改正の概要及び、九州森林管理局保護林再編方針書案などについて審議されたところです。

今回の委員会では、冒頭、池田直弥九州森林管理局長から、「今委員会では、第1回委員会で皆様にご了承いただきました保護林再編方針に基づき、九州



保護林管理委員会の模様

森林管理局保護林再編(案)についてご意見をいただくこととしております。短い時間での会議となりますが、皆様の忌憚のないご意見をいただきたいとの挨拶がありました。

その後、事務局から、保護林再編方針などに基づく保護林再編案の説明及び、各森林管理署(支署)における保護林の状況把握結果並びに、過去の保護林



日本でスギに次いで多く植林されており、雌雄同株の常緑針葉高木です。葉の裏はY字状に気孔溝があり、アスナロW字状、サワラX字状で区別の手がかりになります。

法隆寺は世界最古のヒノキの建造物として有名です。ヒノキは伐採されてから2000年間は強くなり、その後1000年かけて徐々に弱くなると言われています。1300年経た今でも

ピクともしない堅牢さで、使用されているヒノキは1000年以上で、巨木を4つに割って使い、芯を含んだ大きな柱は1本



意見を述べる委員

モニタリング調査結果についても併せて説明しました。



もないとのこと。曲がりやひずみを生じさせないための工夫です。

法隆寺の伽藍のヒノキは、だいたい1000年から1300年ぐらいで伐採されて材料になったものだそうです。(日本のヒノキではない。日本ヒノキの寿命は450年程度)

名前は古昔の人がこの木をこすりあわせて火を出したからと云われており、中国にはヒノキがないので漢名がありません。

ヒノキの葉は鱗片状で十字対生に密着しています。観察会では、ヒノキは針葉樹ですが、針



葉はありません、鱗片葉です。私の話は信用(針葉)がありません。すと笑いを取っています。

委員からは、「個々の保護林名称について、一般的にわかりにくいところがあるため検討すべきである」「単に面積と現状だけを見て区分すべきではない、遺伝子レベルでの保存についても検討すべき」などの意見をいただきました。

今後は、各委員からの意見をとりまとめ、2017年2月24日に開催される、九州森林管理局第3回保護林管理委員会にて、検討結果を踏まえて保護林を再編することとしています。

(担当 川口 画課)



明けましておめでとうございます。2017年の始まりに際し皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます▼昨年は熊本地震や台風被害など、自然災害により甚大な被害が発生し、今なお仮設住宅での生活や、道路の寸断などにより、多くの方々不自由な生活を余儀なくされているところ。▼国・県・市町村においては、震災からの復旧・復興に向けた取り組みを行っており、九州森林管理局においても、被災した民有林治山施設を17地区で直轄施行するなど、被災した森林の復旧に全力で取り組んでいるところです▼震災からの復旧・復興には長い時間が必要となりますが、一日も早く被災した方々が安心して暮らせる日が来ることを願っています▼さて、今年の広報はといえは、昨年は5月号の発行が出来ず、皆様に大変ご迷惑をお掛けしたところであり、今年も1号も欠けることなく発行できるように努力していきたいと思っております▼今年も皆様の協力をいただきますながら、広報九州の発行、広報活動に勤めますのでよろしくお願いたします。(し)